



全国自転車議員ネットワーク リレー寄稿 No.2

「自転車脳のススメ」



文

渋谷区議会議員 伊藤 毅志 (いとう たけし)

公式ウェブサイト: <http://www.ito-takeshi.jp>

本ページの担当事務局: 特定非営利活動法人 自転車活用推進研究会 事務局
 〒141-0021 東京都品川区上大崎3-3-1 自転車総合ビル4階
 TEL 080-3918-2932 URL <http://www.cyclists.jp/>

新国立競技場の 駐輪場は90台!?

私が渋谷区議会で五輪・パラリンピック対策特別委員長を務めていた一昨年、新国立競技場建設を所管する、独立行政法人・日本スポーツ振興センター（以下JSC）から新国立競技場基本設計案の説明を渋谷区議会にしたい旨、連絡があり、区議会として特別委員会がJSC担当者から説明の機会を得ました。もちろん2年前の話し、まだ先ごろ急逝した故ザハ・ハデイド氏設計の撤回された旧案、バイクのヘルメットみたいなイメージの競技場案の説明です。収容人員8万人、スタジアムのコンセプトやスケジュール、アクセスや各設備の配置計画などの説明を受けたのですが、資料の中にあつた施設計画で、「駐輪場の台数-90台」という記述を見つけた私は愕然としました。質疑の時間となり各委員からひと通りの質問、要望が出終わったところで、委員長の私からも質問させていただきました。「8万人の観客を収容する新国立競技場に配置される駐輪場が90台とはどういうことでしょうか？ 桁の記載ミスではありませんか？」と質したところ、JSC担当者からの答えは次のようなもので

した。「スタジアムへの自転車での来場者というものをあまり想定していません。その上で旧国立競技場内と同規模の駐輪場を確保する予定です」とのこと、旧競技場で利用されていた60台程度の駐輪台数にスタジアム収容人数比(5万5千席/8万席)を掛け合わせて90台と算出したとのことでした。「自転車族議員」を自認する伊藤が、ありとあらゆる知識を駆使してJSC担当者に「そんな馬鹿な設置計画は考えられない！」と抗弁したことは当然のことです。

さて、時は流れて本年4月、新たに決定された隈研吾氏設計の新国立競技場「杜のスタジアム」の計画概要について、改めてJSCから渋谷区議会五輪・パラリンピック対策特別委員会へ説明がありました。計画も一新されていれば、JSCの新国立競技場設置本部の幹部職員もすべて交代しています。今回の説明の中でも計画概要書のなかにも自転車や駐輪場のことは一切触れられていません。一抹の不安を覚えつつ「今回の新国立競技場計画中の駐輪場規模を教えてください」と質問したところ担当者一同顔を見合わせて「……」となっています。「ザハ・ハデイド氏の旧スタジアム案では確か90台程度だったはずですが…」とたたみ掛けたと

ころ「定められた設置基準に遵守した形になるものとおもわれます」との判ったような、判らないような答えが返ってきました。私は、東京都が五輪競技施設や都内観光スポットをつなぐ「自転車推奨ルート」を策定して、自転車という交通手段をバスや地下鉄に匹敵する公共交通と位置づけていること、渋谷区も今年度予算から2020年に向け、区内に存するオリンピック・パラリンピック競技会場(国立代々木体育館~新国立競技場)を結ぶ区道路線の自転車通行環境を整備することなどをあげて、「2020年の東京五輪・パラリンピック開催のころには、皆さんの想像をはるかに超える自転車が都内を走り回っているはずですよ。新国立競技場には1千台規模の駐輪場が必要です！」と力説させてもらったのです。

自転車族議員への道

私の渋谷区議会初当選は平成3年(1991年)でした。この29歳の初出馬以来、選挙戦での遊説はいつも自転車(ロードレーサー)を利用してきましたし、日ごろの政治活動も雨さえ降らなければ自転車(シティサイクル)での移動がほとんど、ありがたいことに区民からは「自転車の伊藤



写真1

さん」というイメージを持っていたでいます。そして職場である区議会においても本会議での代表質問、委員会での質疑を含め常に「自転車にもやさしい街づくり」を標榜しつつ、乗る（自転車通行環境の整備）、停める（自転車駐車場の確保）、守る（自転車は車両の意識徹底）の自転車環境整備を心がけてきました。道路行政やまちづくりの専門家の中の「道は歩行者と自動車のもの」という意識を変えていくことは本当に骨が折れることですが、2011年3月11日の東日本大震災の発災が皮肉にも日本の自転車行政のターニングポイントになったものと感じます。大震災当日、都内でも公共交通網が完全に麻痺し、駅や道路には人、自動車があふれました。あの日、私が帰宅用にと自転車を貸してあげた近所に住む友人は「あのときほど自分が帰宅困難者である群集から羨望のまなざしを向けられたことがない」と後日私に語ってくれました。あの日を境に車道を走る自転車の数は飛躍的に増え、それに比して道路管理者や警察、学校関係者の意識の中にも「自転車も道路を利用する仲間」という、自転車脳が芽生え始めたようです。私自身も震災直後に宮城県仙台市から届いた「ノーパンクタイヤの自転車



写真2

が必要」という要望に、当時の渋谷区長にお願いし、区防災課で所有する災害用自転車（ノーパンクタイヤ）を20台確保し輸送、その夏には渋谷区が回収した程度の良い放置自転車100台を、福島第一原子力発電所事故により全町避難を余儀なくされて、会津若松市に移っていた福島県大熊町の児童生徒に寄付をさせていただきました。

そのほかにも、

- 渋谷区内3警察署（渋谷・原宿・代々木）、交通安全協会とともに「自転車マナーアップキャンペーン」に友人で俳優・鶴見辰吾さんとともに参画、区内全域で自転車運転ルールやマナー向上をうったえる（写真1）。
 - 区道への自転車ナビマーク、ナビラインの設置推進
 - 子どもたちへの自転車教育として実際に見て事故の恐怖を感じられる「スケアード・ストレイド方式」による自転車教室を各区立中学校で開催（写真2）。
 - 国内、海外の自転車先進事例の調査・視察
- 最近では、
- 渋谷区のシェアサイクル事情の視察に訪れたロンドン市 ボリス・ジョンソン市長をやはり自転車愛



写真3

好者である長谷部渋谷区長とともにアテンド（写真3）。

など、自転車族議員としての活動を続けています。

自転車脳のススム

しかし、先のJSC担当者もそうですが、渋谷区で道路行政やまちづくりに関わる職員・専門家の間でもまだまだ「自転車脳」が浸透しているとはいえません。私が委員を務める渋谷区都市計画審議会でも再開発や地区計画によるまちづくりや道路整備において、新たな都市計画道路に自転車通行レーンが計画されていないか、再開発計画地域から公共自転車駐車場が消えているなどという事例も散見されます。そのたびに「自転車の視点も忘れないくださいね!」と口をすっぱくお願いすることが続きます。自転車関係者をはじめとして、多くの行政関係者、企業、そして市民に「自転車脳」が根付くまで、伊藤たけしの族議員活動は続いていきます。みなさん、応援よろしくお願いします。 **PP**

※新国立競技場の駐輪台数の件、5月12日に開催された超党派国会議員による「自転車活用推進議員連盟（谷垣禎一会長）」の総会にて、失礼を承知で直訴させていただきました。改善されること、切に望んでいます！